

とうべつ一貫教育かわら版



第1号

平成27年6月

当別町教育委員会管理課発行

当別町では、平成26年4月から教育委員会管理課に一貫教育推進係を設置し、小中一貫教育導入に向けての研究を始めています。「とうべつ一貫教育かわら版」では、教育委員会や各学校で行われている取組の内容や一貫教育に関する情報を随時お知らせしていきます。

小中一貫教育とは何ですか？

小学校で行われている教育課程と中学校で行われている教育課程()を調整して、義務教育期間である9年間という長い期間を「小学校6年」と「中学校3年」で区切ることなく、「トータル9年」で連続性を保ちながら、子ども成長、発達に合わせた指導を行います。この方式を行っている学校を「小中一貫校」と呼んでいます。

中高一貫校と異なり、法律上の制度になっていないので、すでに実施している先進地では、「特区」や「教育課程特例校の指定」といった特例を使ったり、実際の運用によって実施されています。現在、小中一貫校を制度化する学校教育法改正案が国会で審議されており、今国会で成立すれば、平成28年度から制度化される見込みです。

「教育課程」... 学校で行う各教科や特別活動などの教育内容を学習段階に応じて、系統的に配列した計画のこと。

中高一貫教育との違いは？

私立や公立高校の一部で、中学校と高校の教育を一貫して行う「中高一貫教育」が広がっていますが、これらの学校の多くは、難関大学への進学を目標にしています。「小中一貫教育」は目的がまったく異なっていて、義務教育の9年間を再編成しようというものです。

道内の公立校では、登別明日中等教育学校や札幌開成中等教育学校が「中高一貫教育校」として設置されています。



左<登別明日中等教育学校>



右<札幌開成中等教育学校>

小中一貫教育のメリットは？

小学校と中学校が今まで以上に連携しやすい環境になり、小・中学校教職員が一体となって、きめ細やかな学習指導・生徒指導・教育相談等を実施できます。その結果、学習の積み重ねの見通しを持ちやすくなることから、教育効果を高めることができ、学力向上なども期待できます。

また、小学校からの連続性に着目することで、中学校で顕在化する問題を解消することが期待できます。先進自治体では、中学校入学後に一部の生徒におこる「中1ギャップ」()の解消につながったという報告もあります。

「中1ギャップ」... 小学校から中学1年生になったときに、学習面や生活面の不安や指導方法の大きな変化になじめず、不登校になったり、いじめが増えたりすること。